

科目責任者 花田 和彦（薬物動態学研究室）

■ 教育目的

病院薬剤師としての就業体験を通し、業務と責任を理解し、チーム医療に参画すると共に薬物療法の責任の一端を担うことができるようになるために、標準実習で習得した調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度をさらに発展させることで問題解決型の学習を行うことを目的とする。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-①～⑥】

■ 学習到達目標

1. 病院において調剤を通して患者に最善の医療を提供するために、調剤、医薬品の適正な使用ならびにリスクマネジメントに関連する基本的知識、技術、態度を習得する。(知識・技能・態度)
2. 医薬品を正確かつ円滑に供給し、その品質を確保するために、医薬品の管理、供給、保存に必要な基本的知識、技能、態度を習得する。(知識・技能・態度)
3. 医薬品の適正使用に必要な情報を提供できるようになるために、薬剤部門における医薬品情報管理業務に必要な基本的知識、技能、態度を習得する。(知識・技能・態度)
4. 入院患者に有効性と安全性の高い薬物治療を提供するために、薬剤師病棟業務の基本的知識、技能、態度を習得する。(知識・技能・態度)
5. 患者個々の状況に応じた適切な剤形の医薬品を提供するため、院内製剤の必要性を認識し、院内製剤の調製ならびにそれらの試験に必要とされる基本的知識、技能、態度を習得する。(知識・技能・態度)
6. 常に患者の存在を念頭におき、倫理観を持ち、かつ責任感のある薬剤師となるために、医療の担い手としてふさわしい態度を習得する。(態度)

■ 準備学習（予習・復習）

予習：今まで勉強し、学んできた知識を体系化できるよう全教科にわたって復習しておく（20分以上）。

復習：当日学んだこと、体験したことを思い起こし、反省すべき点を見出し、改善策を考える（30分以上）。

■ 授業内容

病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画すると共に薬物療法の責任の一端を担うことができるようになるために、標準実習で習得した調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度をさらに発展させる。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	調剤業務	処方せんの確認と調剤など	F(2)
2	注射薬調剤業務	注射処方せんの確認と調剤など	F(2)
3	製剤業務	院内製剤など	F(2)
4	医薬品管理業務	医薬品の管理、供給、保存など	F(2)
5	医薬品情報管理業務	DI業務	F(3)
6	薬剤師管理指導業務	病棟業務	F(1) F(2) F(3)
7	チーム医療	他の医療スタッフとの連携	F(4)
8	TDM、治験業務	薬物動態、治験	F(3)

■ 授業分担者

花田 和彦、石川 洋一、大野 恵子、石橋 賢一、高橋 晴美、町田 いづみ、三田 充男、佐野 和美、野澤 玲子、田中 靖子、松本 邦洋、鈴木 陽介、高橋 雅弘、永井 純子、高島 勇基

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

定期的な面談及びゼミにおいて随時フィードバックを行う。

病院実習（50%）、症例報告会（40%）、面談・実習記録・ゼミ・特別講演会等への出席（10%）により総合的に判定する。

■ 参考書

治療薬マニュアル 2018（医学書院）

今日の治療薬 2018（南江堂）

Pharmacotherapy: A Pathophysiologic Approach, 10e 等